

第2回 居住支援ネットワーク勉強会報告書(豊後大野市)

一般社団法人権利擁護支援センターたけたねっと

日時：令和3年11月4日(木) 13:30～16:30

会場：豊後大野市役所4階 正庁ホール

(大分県豊後大野市三重町市場 1200 0974-22-1001)

参加者：居住支援ネットワーク勉強会メンバー 24名

(行政・福祉関係者・大分県宅建協会・物件大家・大学教授および学生)

目的：豊後大野市における孤立対策や地域課題の共有と居住支援でできることをグループワークで探る

内容：①第1回勉強会(8/5)の振り返り

②第1回勉強会について各参加者からの意見・感想

④偕生会の取組について(社会福祉法人偕生会)

⑤地域課題の共有と課題解決へ向けた方策検討のグループディスカッション

・参考情報提供～他県の取組状況等について

・グループディスカッション

⑥本日のまとめ

⑦居住支援フォーラム 講師 芝田先生(11月12日開催予定)の告知

⑧次回勉強会について

趣旨：前回の第1回居住支援ネットワーク勉強会参加者の感想や意見を出し合い、居住支援に対するメンバーのイメージや疑問点などを確認し合う。

それらを踏まえた上で、事例を基にグループワークで課題解決のアプローチを探る。

詳細：

- ① 第1回勉強会（8/5）の振り返り
- ② 第1回勉強会について各参加者からの意見・感想

第2回勉強会が初参加という方もいらっしゃったので、参加メンバーの自己紹介等も行った。



- ③ 偕生会の取組について（社会福祉法人偕生会）



平成26年に厚生労働省「低所得高齢者等住まい・生活支援モデル事業」としてはじまった、社会福祉法人偕生会「くすのきハウス」の取組について、偕生会花見園園長の板井律子氏より話があった；

くすのきハウスとは衣食住を支える場で、「住」および生活支援を提供し、良好な支援関係を育むことで、「何か自分にできることをやりたい」と実践力に火をつけることができた。例えば、法人が運営する花見園隣接の雑木林での山仕事や、「くすのきハウス」

の菜園整備など、それぞれが得意分野で能力を発揮している。

人間の生を支える衣食住の住が整い、得意分野を活かして「生きる力」と「技」を磨くなかで、「くすのきハウス」卒業が見えている方もいらっしや、現在あらたな「くすのきハウス」を模索中である。引きこもりや 8050 問題など、さまざまな社会課題があるが、まずは、住まいの確保として、豊後大野市の斡旋（空き家バンク等の活用）・地域の大家さんの勉強会開催・地域の不動産業者への働きかけを考えている。同時に、生活支援の確保として、豊後大野市内の他の社会福祉法人および民間有志等への声かけを行う。

花見園に隣接して花見山公園をつくろう！！と、偕生会「くすのきハウス」での居住支援活動等をとおして、夢は広がっている。

④ 地域課題の共有と課題解決へ向けた方策検討のグループディスカッション

- ・参考情報提供～他県の取組状況等について
- ・グループディスカッション

⑥ 本日のまとめ

⑦ 居住支援フォーラム 講師 芝田先生（11月12日開催予定）の告知

⑧ 次回勉強会について



居住支援として「できること」「できないこと」「必要なこと」「足りないこと」等について意見交換し、共通認識を持つため、異分野同士の参加者6名が1グループとなり、グループミーティングおよび発表を行った。

テーマは2つあり、それぞれ「孤立化する高齢者の現状の共有と支援の方策の検討」と「低所得者の現状の共有と[居住]及び[就労支援]の方策の検討」である。

参加者は、それぞれの得意分野を生かすことで、ネットワーク形成による協働により課題解決を図るフローを擬似体験することができた。